【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】　基幹大槌 100

事業番号　C-1-1
事業名　　漁港環境整備事業　吉里吉里地区

事業費　総額 3.10 億円（国費 2.32 億円）
（内訳:設計費 0.20 億円、工事監理費 0.01 億円、工事費 2.89 億円）

事業期間　平成 25 年度～令和２年度

事業目的
　東日本大震災津波によって、吉里吉里漁港は壊滅的な被害を受けた。快適な漁港環境を確保するため、本漁港の区域内において、緑地、便所等の施設整備を行い、漁村及び水産業の復興を図るもの。

事業地区
　大槌町　吉里吉里地区　　※別紙の図面、写真を参照

事業結果
　○　漁港環境整備施設一式
　　（樹木、芝生等 一式（A=16,000m2）、便所２箇所　等）
　○　令和３年３月完成

事業の実績に関する評価
　①　事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価
　［調査・分析］
　　○　当該施設は、吉里吉里漁港を利用する地域住民及び漁業者の憩いの場として多くの方々に利用されており、漁港の環境向上に寄与している。
　　○　災害時には、広場を多目的（復旧資材置場等）に利用可能であり、災害に強く安心して暮らせる地域社会の実現に貢献している。
　　○　なお、当該施設の清掃管理等については県が管理を行っている。
　［評価］
　　上記のとおり、本事業によって漁港環境整備施設の整備が図られ、快適な漁港環境の確保に寄与していることから、本事業は事業目的に即した効果を発揮していると判断する。

　②　コストに関する調査・分析・評価
　［調査・分析］
　　○　岩手県会計規則等に基づき適正に工事の競争入札を実施しており、事業費積算においては土木工事標準積算基準書等の適切な算定根拠を用いている。
　　○　周辺工事との調整を密に行い、他工事で発生した土砂を盛土材料として活用することでコスト縮減に努めながら事業を進めた。
　［評価］
　　上記のとおり、会計規則等に基づく契約手続きを経て実施された事業であり、他の工事で発生した土砂を盛り土材料として活用することで、コスト縮減に努めていることから、本事業に要したコストは妥当であると判断する。

③　事業手法に関する調査・分析・評価

［調査・分析］

	想定事業期間	実際の事業期間
設計	平成 25 年度～平成 26 年度	平成 25 年度～平成 28 年度
整備工事	平成 25 年度～平成 27 年度	平成 26 年度～令和２年度

○　本事業は、平成 25 年度に事業着手し、平成 27 年度に整備工事を完了する予定であったが、本事業の整備箇所が、防潮堤等の復旧工事による作業ヤードとして使用されていたこと等の理由によって、整備工事への着工が遅れたことにより、事業期間が延伸し、完了が令和３年３月となった。

［評価］

上記のとおり、防潮堤等の復旧工事の作業ヤードとして使用されていた等の理由によって工事の着工が遅れ、事業期間が延伸したものであり、施設整備のための事業期間としてやむを得ないものと考えられることから、事業の手法は妥当であったと判断する。

事業担当部局

岩手県農林水産部漁港漁村課　電話番号：019-629-5828

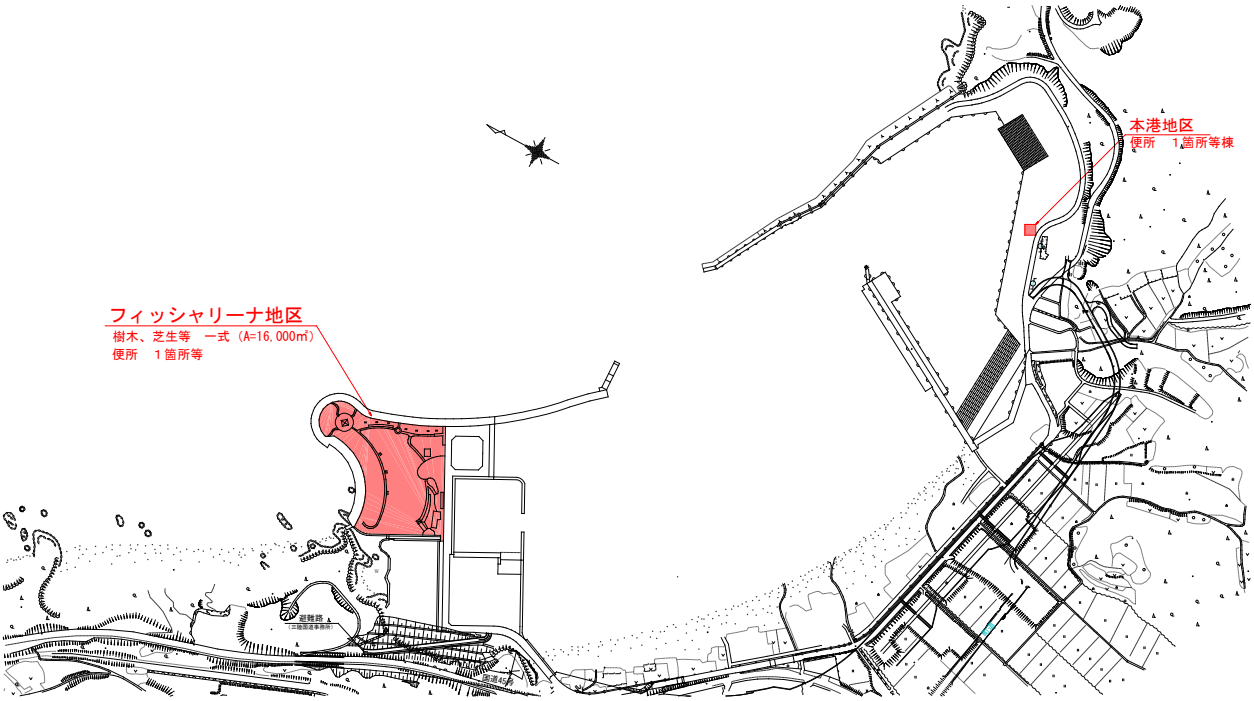
別紙

Ｃ－１－１　漁港環境整備事業　吉里吉里地区

＜位置図＞

（別紙）

＜平面図＞



＜被災直後の状況＞

フィッシャリーナ地区

本港地区

＜整備後の状況＞